

平成21年度美術館・博物館活動基盤整備支援事業成果報告書

(対象事業：地域連携強化事業・~~地域文化資源整備活用事業~~・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：展覧会の教育普及事業の実施―「布のころ～受け継がれる母の想いとくらしの美～」展を中心として

事業者名：北九州市立自然史・歴史博物館

住所：福岡県北九州市八幡東区東田2-4-1

TEL：093-681-1011

FAX：093-661-7503

HPアドレス：<http://www.kmrh.jp/>



連携事業者名：北九州市内の小学校、北九州市立大学、
社団法人シャンティ国際ボランティア会、
庶民時代裂研究会、豊前小倉織研究会

会場：北九州市立自然史・歴史博物館

事業期間：平成21年10月6日～平成22年3月15日

1. 館の使命と本事業の関係

「布のころ～受け継がれる母の想いとくらしの美～」展（以下「布のころ」展）は、近代の女性ときものとの関わりのなかで、近代における庶民の衣生活と、くらしの中で受け継がれた物を大切にすることや美意識について紹介するものである。

これに関連して授業・ワークショップ・講演会等で幅広く来館者に公開することは、環境モデル都市としての資源の再利用や地元小倉織の情報発信という館の使命を実現可能とする。

2. 企画内容

①事業目的

「布のころ」展に関連し、博物館が学校と協力し授業を行う「昔の道具調べ」や、ワークショップ・講演会等を通して、布を中心とした展覧会の学校教育への活用や様々な生涯学習活動などの教育普及事業を実施する。

②事業概要

1. 授業への活用

「昔の道具調べ」において、「布のころ」展の展示物から昔の衣料、自給自足の衣生活、布を大切に扱うところについて学習し、使い捨ての現代の生活を見直す必要を説く。

2. ワークショップの実施

- ①小倉織の機織り体験、②藍染め体験、③古布のハギレで葉作り
- ④「ハギレでつなぐ未来へのメッセージ」タペストリーの作成を実施

3. その他

- ①講演会の開催、②ギャラリートーク、③人形劇による展示解説
- ④古着の募集・寄付

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

平成 21 年度冬季に実施される「布のこころ」展の開催期間に合わせて、以下の教育普及事業を実施した。

① 授業への活用

平成 19 年度から実施している博物館が学校と協力して授業を行う「昔の道具調べ」において、「布のこころ」展の展示物から昔の衣料、自給自足の衣生活、布を大切にすることについて学習し、使い捨ての現代の生活を見直す必要を説いた。



「布のこころ」展会場での授業風景

② ワークショップ

展覧会に関連した以下の布のワークショップを通して、実際に布を織り、染めることで作った衣類やハギレの活用方法を考えた。

ア. 地元小倉織の機織り体験

実施日：平成 22 年 1 月 30 日 参加数：12 名

イ. 藍染め体験

実施日：平成 22 年 2 月 6 日 参加数：10 組 19 名

ウ. 「ハギレでつなぐ未来へのメッセージ」タペストリーの作成



小倉織体験の様子

③ その他

展覧会の内容理解を深めることを目的とした講演会・解説、子供用古着の募集・寄付を実施した。

ア. 講演会の開催

実施日：平成 22 年 1 月 16 日（土） 参加数：約 150 名

イ. ギャラリートーク

実施日：① 1 月 22 日（金） ② 1 月 28 日（木） ③ 2 月 3 日（水） ④ 2 月 4 日（火）

参加数：① 34 人 ② 39 人 ③ 72 人 ④ 85 人

ウ. 人形劇による展示解説

実施日：① 2 月 13 日（土） ② 2 月 14 日（日） 参加数：約 60 名

エ. 子供用古着の募集・寄付「布でつなぐ子供たちの未来」

募集期間：1 月 2 日（土）～ 2 月 10 日（水）整理イベント：参加応募なしのため、中止

オ. 着付体験

実施日：1 月 24 日（日）、2 月 7 日（日）、2 月 21 日（日） 参加数：50 名

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ _____ 人

内 訳:

(3) 事業により作成した印刷物等

①「布のこころ」展関連シンポジウム 配布資料

②いのちのたび博物館 冬の特別展「布のこころ」関連イベントに行こう!!

チラシ

③いのちのたび博物館 冬の特別展「布のこころ」関連イベントに行こう!!

ポスター

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事



「声にすごく伸びが
あり驚いた。生で聞けて
よかった」と笑顔で話
した。

伝統あい染め
親と子で体験
いのちのたび博物館

八幡東区の市立いのち
のたび博物館で開催中
の企画展「布のこころ」
受け継がれる母の想いと
くらしの美」の関連イ
ベントとして、あい染め
の体験が6日、同館で
あり、親子連れなど約
20人が木綿のハンカチ
を、鮮やかな紺色に
染め上げた。

小倉北区吉野町の工
房「藍染市場」代表の
中野真智子さん(56)が
指導。参加者は木綿を
板で挟んだりゴムを巻
きつけたりして、思い
思いの模様を染めに挑
戦。親子で参加した若
松区島田佳歩さん(11)
は「きれいな模様が浮
かび上がるのが不思議
で、おもしろい」と笑
顔だった。

初めてのあい染めに挑戦する
子どもたち

西日本新聞 朝刊 2010年2月10日

○テレビ、関連誌等

なし

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

本助成事業では、当館所蔵「堀切辰一コレクション 襦袢^{らんる}」（以下「襦袢」）を中心とした特別展「布のこころ ～受け継がれる母の想いとくらしの美～」展に関連した教育普及事業を行った。「襦袢」は、近代の庶民たちが使っていた布を中心としていることから、継ぎ接ぎなどが当てられたいわゆる「ボロ」が多い。今回の展覧会は、そのようなボロを纏っていた人々のくらしと布を大切に使う心を伝えることが目的であった。よって、「昔の道具調べ」では、これまで行っていた様々な道具を触ることだけでなく、衣生活に焦点を当て、綿から布ができるまでを説明した後、継ぎ接ぎのあつた布を子供たちに触らせ、布の大切さ、今の自分たちにもできるリサイクル活動を考えさせた。

一方、講演会・シンポジウム、ギャラリートークでは、堀切辰一氏を中心に、布を収集・研究されてきた方々の活動や想いを紹介した。「布」も見る角度によって様々な側面を持っており、人々のくらしを象徴するものであることが伝わった。大学生による人形劇は、講演会・シンポジウム、ギャラリートークなどに参加しない子供を対象とし、物語を通して布の大切さを説いた。

また、ワークショップでは、江戸時代にこの地方で名産だった「小倉織」に注目し、地元の織物の歴史と技術の体験、小倉織の特徴であった「藍」の講義と染めを行い、歴史資料に基づく小倉織研究の活動、布を作る技術を学んだ。

さらに、普段の生活の中の布を見直すものとして、古着募集、着付体験、タペストリー作りを行った。現在では継ぎ接ぎを当てた布を用いることはほとんどなく、布を簡単に捨てることも多い。古着募集は昔の人々の布を大切にしたい心を感じ、「自分にもできること」を考え実行する場として機能し、着付体験は、身につけることが少なくなった着物に触れ、着物の楽しさ、機能を再確認することができた。このような、展覧会と体験を通して感じた想いをタペストリーに自由に書いてもらったところ、母親や祖母を思い出したもの、自分の生活を見直す言葉などが多く綴られた。

これらの布を中心とした教育普及事業は、館蔵コレクションである「襦袢」、ボランティアの糸車・機織活動、「昔の道具調べ」体験及び授業を活用したものであることから、一過性のものではなく、今後も継続して行うことを検討したい。これにより、環境モデル都市としての資源の再利用や、地元小倉織の情報発信という館の使命を実現可能とするものであると考える。